

1. 本研修の目的

WHO 西太平洋地域事務局 (WPRO) 管内のアジア・大洋州地域の途上国では、生活習慣病の有病者の増加が大きな健康課題となっている。これらの国々にて生活習慣病対策を推進する保健省の担当者が一同に会し、その能力強化を図るためのワークショップを行うとともに、わが国での NCDs 予防対策についての取組や知見を発信することにより、アジア・大洋州地域の NCDs 予防対策の推進に資する人材育成を行うのが本ワークショップの目的である。

2. 開催概要

WPRO 管内途上国の保健省の生活習慣病対策担当者の能力強化を目指す”Regional Workshop on Strengthening Leadership and Advocacy for the Prevention and Control of Noncommunicable Diseases (LeAd-NCD)”は、本年度で3回目の開催となる。本年度は、産業保健における生活習慣病対策を重点テーマとし、講義、グループワーク、日本での活動事例視察等のプログラムを行った。従来からの産業保健の活動に生活習慣病対策の取組を加え、Worker’s Health の向上の図る視点から、プログラムが構成されていた。日本の知見や経験についても3名の講師からの講義と、工場における生活習慣病対策の事例(アズビル株式会社・湘南工場)視察にて紹介した。

なお、これまでの一連の NCD ワークショップでの活動内容については、WPRO の公式ホームページに報告書が掲載されているので(http://www.wpro.who.int/noncommunicable_diseases/en/)別途ご参照いただきたい。

3. 対象国

本年度の対象国はカンボジア、フィジー、グアム、ラオス、マレーシア、モンゴル、フィリピン、サモア、ソロモン諸島、トンガ、ベトナムの11か国であった。各国2名ずつの参加であり、本年度のテーマを踏まえ、1名は保健省の生活習慣病対策担当者、1名は労働省の産業保健担当者であった。

異なる部門の担当者がひとつのテーマに向かってグループワークを行うことにより、生活習慣病対策の推進に必要な部局横断的アプローチを習得する研修内容となった。

【於：本院 玄関ロビー】

